

情報 ひがし労

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

編集者 情宣部

日本各地で大雨長期化

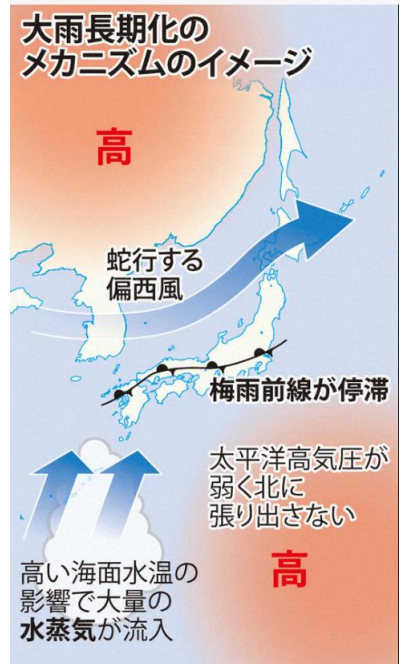
～危険と感じたら命を守る行動を～

各地で大雨をもたらした線状降水帯

7月3日から16日にかけて、九州地方をはじめ、岐阜県、長野県、島根県、広島県などの広い範囲で大雨となりました。被害状況は16日現在内閣府発表で死者76名・行方不明者8名、避難者数は22,039名にもなります。亡くなられた方のお悔やみを申し上げると共に、被災された方のお見舞いを申し上げます。

この大雨により、各地で線状降水帯が発生し、河川の氾濫が相次ぎました。50年に一度レベル以上の災害が今夏も日本全土で発生しています。球磨川や川辺川が氾濫し65名の死者を出した熊本県を始め、全国11県に大きな爪痕を残しています。

異例となる前線停滞の長期化は、日本の南側にある太平洋高気圧に一因があります。例年この時期は、太平洋高気圧が張り出して前線を北へ移動させますが、今年はその力が弱く前線を停滞させています。また、地球温暖化によって、日本の周辺の海面水温は約100年前に比べて2～3度上昇していますので、日本列島が亜熱帯地域にあると考えてもいなくらい地球温暖化が進んでいます。日本の北上空で吹く偏西風が、朝鮮半島付近で南側に蛇行していることも前線の北上をしにくくし、日本付近の比較的狭い範囲で停滞が続いています。



出典：毎日新聞 7月15日付

早めの避難準備と心構えを

重要となるのが“避難”です。台風は発生時から、気象庁から情報が発表されるため、心の準備や避難行動を早めに行うことができます。一方で、ゲリラ豪雨や線状降水帯は予測が難しいと言われています。出水期と言われる10月までは天気予報をこまめにチェックすることや、少しの雨でも心構えをすることが重要です。指定避難場所、ハザードマップを確認することや分散避難などを家族と打ち合わせをすることが大事です。また、避難所での新型コロナウイルス感染症対策も同時に行っていかなければなりません。



一日も早く安心して暮らせる様に、支援・連帯の輪を広げていこう！